

INTERVIEW

研修員 インタビュー

拡大版

この夏出会ったJICA研修員は皆それぞれ自国のことを熱心に語ってくれた。聞きっぱなしにするのは惜しいので「研修員インタビュー」の拡大版としてお届けすることにする。札幌センター夏祭り(7/17)の会場で風船アートに興じていたエジプトの看護師グループとは集団インタビューをすることになった(7/20)。札幌の働く女性の会であるBPWの会合(8/17)で「農村振興セミナーコース」のメキシコとカンボジアの研修員が自国の現状を発表した。熱く語っていた姿に感銘をし、後日(8/25)個別のインタビューを申し込んだ。10月帯広センターを訪れて「循環型酪農システムコース」で研修中のヨルダンの研修員にヨルダン農業、酪農業の現状について聞いた。



シン・ソビス博士(カンボジア)
Dr. Sin Sovith

カンボジア政府栽培土地改良省作物局長

JICA札幌「農村振興セミナーコース」(2004年7月20日～8月29日)

国の生産活動の中心は農業です

「私の職場は作物栽培、栽培技術、施肥など全般にわたる改良を担っています。各地に地方センターを置いて職員が農民に直接技術を伝え、指導しています」。「カンボジア全人口の80%は農村地帯に住んでおり、さらにその70～80%が農民です。農業生産の70%は米作です」と話すように、カンボジアは農業国といえる。「国のほぼ中央部に位置するトンレ・サップ湖を中心とする広い地域は平坦で水にも恵まれていますので米作りが盛んです」。

結婚すると男性は妻の家に入る

「皆さんご存じないかもしれませんが、カンボジアでは男性は結婚すると妻の家に住み、妻の両親と暮らします。私も家内の家に住んでいます。これは国の伝統です」。さらに、「日本ではまだ夫が家計を握っている家庭が多いと聞きますが、カンボジアでは80%以上の家庭で妻が主導権を持っています。例えば、家電製品など大きな買い物をするような時には妻が決めます。私が欲しいと思っても彼女が要らないといえは買えません！」。一家の財産も娘が相続して両親と一緒に暮

らすことが多く、いわゆる女系家族制に近いものが残っているという。ただし、農作業については一般的に男性主体で、女性は、忙しい時期に種まきなど軽作業を手伝うくらいという。

今カンボジアに一番必要なものは

「とにかく生活水準を高めることでしょう。農業分野にかぎっても地元単位の小規模な米取引だけで、国際流通システムがまだありません。国際マーケットにアクセスできるようになりたいです。カンボジアはこの秋に世界貿易機構(WTO)に加盟することになりました(編注・2004年10月13日に148番目の加盟国として認められた)。将来的には、例えば、日本などに米、大豆などを売りたいですね。そのほか生ゴムもとれますが品質はいいですよ」。

BPWの会合での発表で「カンボジアでは、今、国中どこへ行っても子どもで溢れています。彼らのためにも良い国を作りたい」と話していた。長い戦乱と混乱の後、カンボジアにとって日本の戦後復興と発展のプロセスは今後の国造りにたいへん参考になるそうで、いろいろな意味を込めて最後にひと言、「皆さん、どうぞカンボジアに来て下さい」。ゆつたりと椅子にかけ、泰然として語る言葉には国の将来への自信に満ちていた。



ガブリエラ・アレラーノ・マルキーナさん(メキシコ合衆国)
Ms. Gabriela Arellano Marquina

モレロス州立大学農学部講師

JICA札幌「農村振興セミナーコース」(2004年7月20日～8月29日)

資金、技術、労働力などの多くが投下されている北部農業地帯

「メキシコの農業は、北部の主に外国の企業体等が行う大規模なもの、首都のメキシコシティを中心とする中部の小規模な個人農業のふたつに大別できます。日本でみなさんが店頭で見かけるメキシコ産のトマト、トウモロコシ、アスパラガスなどの野菜は前者の大規模な農場で生産された作物です。こうした農場で働いている農業労働者は、かつてはメキシコ各地で自分の土地で農業をしていた人たちです」。「中部では米作りが盛んで、乾季(地域によるが11月～3月頃)には灌漑して作っています。トマト、玉ねぎ、ニンニクなど野菜を栽培する小規模な農家が主流です」。「メキシコ湾岸沿いからカリブ海の半島部に

かけての地帯は農耕地は狭く、綿花栽培のほか作物栽培は自給自足程度です」と、メキシコの農業の現状について率直に聞かせてくれた。

組織だって協調するのが苦手なメキシコ人

ガブリエラさんによると、「メキシコ人は普段の生活では楽しい人間関係を築くのが上手ですが、農業に限らず、こと事業、仕事となると協調性に欠けて、組織だった仕事が苦手です」。こうした性格は農業経営にもあらわれ、作物も地元の消費向けに留まって、広く流通させるためのシステムがなかなか出来上がらないという。「規模ははるかに